

令和7年度

研究集録

感じ取る 伝え合う より深く

— 人や音とのつながりを意識した学びを目指して —

名古屋市音楽研究会

名古屋市音楽教育研究会

目 次

I	研究のテーマおよび研究のねらい	1
II	研究の方法	
III	研究の内容	2
1	研究	
	研究部	
I	ねらい	
II	活動の方法と内容	
III	活動の経過と報告	3～7
2	研修	8
	(1) 音楽教育講演会	
	(2) 夏季研修会	
	(3) 冬季研修会	
	(4) 生産・文化的部活動指導者研修会	
	(5) 学習会	
	学習会	
I	ねらい	9
II	活動の方法と内容	

I 研究のテーマおよび研究のねらい

感じ取る 伝え合う より深く

— 人や音とのつながりを意識した学びを目指して —

本市では、令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定された。そこには、どの学校園でも大人が大切にしたいこととして、「子どもは有能な学び手」であると理解し、尊重、対話、チャレンジを大切にしながら、子どもの学びに伴走することが明記された。重視したい学びの姿として、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」の三つが挙げられている。これまでも、音楽科では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化の充実を重視した実践がなされてきている。

本研究会では、令和4年度から「感じ取る 伝え合う より深く」をメインテーマとして研究を進めている。「ナゴヤ学びのコンパス」策定を受け、昨年度はサブテーマを「子どもの思いを尊重し、子どもの学びに寄り添って」とした。子どもの思いに寄り添い、子ども中心の学びを大切にした実践が多数報告され、個に応じた学びの場の設定や支援の仕方について具体的な手立が明らかとなった。実践を通して、子どもたちが自分なりの課題をもち、どのように学ぶかを自己選択・自己決定しながら主体的に学習を進める姿が多く見られた。

一方、子どものもつ自分なりの課題が技能面に偏りがちになり、思いや意図をもってよりよい表現を追究するまでに至らないことがあった。また、子どもたち一人一人が自分の課題を意識して学習を進める姿は見られたが、仲間と共に課題を見だし、課題解決に向かって共に学びを深めていこうとする姿はあまり見られなかった。

そこで、令和7年度はサブテーマを「人や音とのつながりを意識した学びを目指して」とする。子ども中心の学びを軸に、子どもたちが音や音楽を通して仲間とつながり、共に音楽を楽しむ姿を目指したい。そして、音楽によって心が動き、心を豊かにする経験をたくさん積んでほしいと考える。そのために、子どもたちが「表現したい」と思えるような曲との出合わせ方や、仲間と共に学ぶよさや楽しさを感じられるような教師の働き掛けを大切にしていきたい。また、仲間と共に思いや意図を共有し、よりよい表現を追究することができるようにするには、伴走する教師の的確な助言や支援が重要になってくる。音楽科の学習が、人や音とのつながりによって、より深まりのある、音楽科としての学びの在り方を追究し、発信できるよう研究を進めていきたい。

II 研究の方法

全体研修及び研究部における授業実践を通して研究を進める。

全体研修では、学習指導要領の主旨や今日的な教育課題を踏まえて、指導法や評価の在り方等を学ぶ。また、生産・文化的部活動指導者研修会では、日々の指導に生かすことのできる効果的な手立てや実践例について研修する。

研究部では、授業実践例を紹介し合ったり、実践の成果と課題を持ち寄ったりして、参加者が対話しながら効果的な指導の在り方について研究する。また、教材研究の在り方や、教具や指導法の工夫などについて体験的に学ぶ。

全体研修及び研究部の取組を通して、主体的・対話的で深い学びにつながる有効な学習活動を模索し、授業に生かすようにしていく。

Ⅲ 研究の内容

令和7年度の研究内容は、次の通りである。

1 研究

研究部

I ねらい

研究部は、よりよい授業を目指し効果的な教材や教具、指導の手立て、支援の方法などを探ることと、日々の授業実践を基に、音楽及び音楽教育に対する見識を高め、音楽教育の今日的な教育課題解決に向けて取り組むことを目的としている。そのために、毎回部会のテーマを設定し、指導のねらいを達成するための効果的な教材研究の在り方や実践の進め方、検証や分析の方法、評価の在り方などについて学ぶ。また、どのような子どもを育てたいのかを明確にし、目指す子ども像に迫るための具体的な手立て、活動内容や発問、教師の働き掛けなどについて考えることを通して、子どもの学びが深まるためのより効果的な指導法について協議を行う。

今年度は、「感じ取る 伝え合う より深く一人や音とのつながりを意識した学びを目指して」というテーマに迫るために、子どもたちが音や音楽を通して仲間とつながり、ともに音楽を楽しむ姿を目指す。そのために以下の点に重点を置き、実践研究を進めていく。

- 自分に合ったペースや学習方法を選択することは、子どもが自ら学びを進めていくために有効であるかの検証
- 「このように表現したい」という思いを音楽表現に生かすために、必要な知識や技能の習得を目指した指導・支援の在り方についての検証
- 指導者自らの課題について考えることが、より豊かな音楽表現を行うために有効であるかの検証

音楽によって心が動き、心を豊かにする経験をたくさん積むために、教材の選択や子どもたちとともに伴走する教師の働き掛けを大切にしたい。音楽科の学習が、人や音とのつながりによって、より深まりのある学びの在り方を目指して研究を進めていく。

II 活動の方法と内容

1 日々の実践のまとめ

- (1) 講師を招き、研究の進め方やまとめ方、研究レポートの作成の仕方を学ぶ。
- (2) 会員の応募論文（組合教育研究、指導体験記録、名古屋市教育研究員等）や様々な研究レポート（校内研修、センター研修等）に取り組む予定についてアンケート調査を行い、個別に支援をする。

2 効果的な指導法の提案と情報交換会

「ナゴヤ学びのコンパス」の策定を受け、「自分に合ったペースや方法で学ぶ」「多様な人と学び合う」「夢中で探究する」学びの姿の実現に向けて、具体的な活動を提案する。各回のテーマを決め、授業実践の事例を通して、子どもたちが音楽活動に向かうために効果的な指導法や支援の仕方について協議する。また、授業における困り事を相談したり、有効な実践例を共有したりすることができる場として、小グループで意見交流をする「情報交換会」を設ける。グループを、発達段階ごとに小学校低・中学年、高学年、中学校と編成することで、各教員が現在抱えている困り感の具体的な解決策を検討する。

Ⅲ 活動の経過

第1回 研究部会活動報告

6月13日(金)

<部会の報告>

教研推進部と研究部がタイアップし、第1回研究部会を行った。豊国中学校長の二階千晶先生を講師としてお迎えし、「授業実践のまとめ方」についてご講演いただいた。【写真①】

論文を書く前に自分が実践してみたい授業や目の前の子どもの実態、今日的な課題などを明らかにして整理することや、「手立て」「実践の流れ」「実践のまとめ」の組み立て方について分かりやすく説明していただいた。

参加者は、講演の内容に沿ったワークシートを用いて授業実践をまとめる手順について考え、自らの授業改善を図るためにはどうしたらよいかを考えることができた。

講演後、相談会を行った。「小学校低学年」「小学校高学年」「中学校」の3つのグループに分かれて、授業の悩みや、解決につながるアイデアなどを活発に話し合った。【写真②】参加された多くの先生方の、授業に対する意欲が感じられる部会となった。



写真①



写真②

<講演での内容>

授業実践のまとめ方

1 論文を書く前に

- 自分が実践してみたい授業
- 目の前の子どもの実態
- 今日的な課題 などを明らかにする。

2 論文の組み立て方

- ① 目指す子ども像
- ② 児童・生徒の実態
- ③ 課題の原因
- ④ 目指す子ども像に迫るために ①の児童・生徒の育成を目指す。

3 実践の流れ

- (1) 実態把握（アンケートや「テーマに対してどうなのか」を考える）
- (2) 実践計画（授業計画の中の一つ。教材を吟味。ふさわしい教材かどうかを考える）
- (3) 実践1の結果と考察（結果と考察を区別する）
- (4) 実践2（新たな手立てを考えるが、あくまでも課題解決のための手立て）
- (5) 実践2の結果と考察（できるようになったことはもちろん、できなかったことも書く）

4 実践のまとめ

- ・ テーマやねらいとまとめがずれないようにする。

第2回 研究部会活動報告

7月11日(金)

＜部会の報告＞

第2回は、「個別最適な学びの実践報告」をテーマに実践紹介を行った。

○ 小学校6年生「じゅんかんコードをもとにアドリブで遊ぼう」【実践①】

一枚ポータフォリオの「マイロード」を使い、題材の課題に対して、子どもが自ら目標を決め、計画を立て、振り返りをしながら表現したい音楽をつくった。また、「要素」についての学びを蓄積することを目指す取り組みとして、モジュール学習の「マイタイム」について、例えば子どもにスプリングドラムとシンキングボウルを提示し、自由な奏法で演奏をさせた後に、楽器には様々な音色があることを伝え、音楽室にある楽器の音色について探究する活動に取り組んだ。この実践では、一枚ポータフォリオとモジュール学習が組み合わさることで個別最適な学びが可能になることが報告された。

○ 小学校3年生「リコーダー学習における個別最適な学び」【実践②】

楽曲を演奏するために必要な技能を一覧にした「リコーダークエスト【ワークシート①②】」を用い、自分が達成したいめあてや、めあてを達成するための練習方法をその中から選んで学習を進める活動に取り組んだ。また、自分のめあてを達成するために、自分のレベルに合った練習方法の動画を探究学習・協働学習システムから選び、動画に合わせて繰り返し練習する取り組みを行った。この実践では、個別最適な学びをリコーダー学習に取り入れることで、子どもの演奏技能の向上につながることを報告された。

○ 小学校6年生 歌唱分野での個別最適な学びにつながる導入について【実践③】。

発声練習では、全員で同じ楽曲（「あくびのうた」や「ゆかいに歩けば」など）を歌唱する際、自分の高めたい課題（「音程」「呼吸」「響きのある声」）に合わせたトレーニング方法をそれぞれ選んで歌唱する活動に取り組んだ。また、歌唱活動や鑑賞活動では、音楽を形づくっている要素や音楽の感じを表す言葉を一覧にした「使ってみよう音楽の言葉カード」を提示することで、自分の思いや意図を言語化できるようにした。この実践では、子どもが自分で課題を見付け、解決できるような手立てが報告された。

＜部会で紹介された実践やワークシートへのリンク＞

【実践①】 【実践②】 【ワークシート①②】 【実践③】

＜情報交換会の様子＞

【 小学校低学年 】

自分の思いや意図を言葉にすることが難しい子どもも多くいるため、どのように指導していくとよいかについて議論がなされた。まずはいろいろなリズムや音色に触れ、自分の音楽体験を蓄積していくことが大切なのではないかという意見が挙げられた。

【 小学校高学年 】

「個」での学習になりやすい、リコーダーの学習方法について話し合った。演奏が得意な子どもの活躍の場をつくるのが学び合いにつながるのではないかという意見が挙げられた。

歌唱については、思いや意図を表現に生かすための方法が話題となった。

【 中学校 】

合唱のパート練習を子どもたち自身の力で進めるためには、子どもたち同士の信頼関係を高めることが大切であり、日頃の授業で教師が意図的に働き掛けをする必要があることが話題となった。

第3回 研究部会活動報告

9月22日(月)

<部会の報告>

第3回は、「子どもの”歌いたい!”という気持ちを育む合唱指導 ～小学生から中学生への系統的な音楽指導の実践～」をテーマに、滝ノ水中学校の山本高栄先生を講師として、合唱講座を行った。

○ 発声トレーニング【録音①】

授業の導入で利用できるモジュール活動や発声トレーニングからはじまり、楽曲表現に利用できそうな発音や発語の準備運動を行った。

「思いや意図をもって歌唱表現をするにはどうすればよいか」という疑問はよく挙がりがちだが、子どもの知識・技能の向上を図ることと、作品の大意を知り表現しようとする姿勢は両輪であると考えられる。日頃の授業の中で積み重ねるようにするにはどうすればよいか、提案がなされた。

○ 「旅立ちの日に」【録音②】

「旅立ちの日に」では、この作品が生まれた経緯や、小嶋登校長先生や坂本浩美先生の生徒に対する思いを共有することが大切である。合唱作品の世界により深く入り込むためには、作詞者や作曲者の「思い」を知ることが大切であることを、小嶋校長や坂本先生の映像を観ながらお話いただいた。

○ 「大切なもの」【録音③】

「大切なもの」では、フレーズを構成する歌詞に注目し、調号や強弱記号の示す意味や声部の関わり合いなどに着目をして活動を深めた。

合唱曲の選曲について、教師は「毎年歌っているから」「この曲が指導しやすいから」という理由で選曲するのではなく、「この作品を通してどのような力を育てたいのか」を明確にしなければならない。最後には、参加した先生方全員で合唱をし、思いや意図をもって歌唱することの大切さや、小学生や中学生に限定することなく、音楽を深めていくことの大切さを共有した。【録音④】【写真】



<部会の録音（活動の様子）へのリンク>

【録音①発声トレーニング】 【録音②「旅立ちの日に」】

【録音③「大切なもの」】 【録音④「全員での合唱」】

<Q&A「参加者の質問」と「山本先生の助言」より>

Q 変声の終わっている生徒と変声していない生徒の指導の分け方について

A 分けをすると、子どもたちは声を発することを臆してしまいます。「よい発声」「楽曲に合った望ましい表現」の方向性は失わないようにし、どんな声で歌っても仲間や先生が受け入れてくれる、心理的安全性が教室の中にあるようにしたいです。

Q 歌唱指導や授業で心掛けたほうがよいことは何か

A 小学生や中学生にとって、義務教育で習う音楽の授業は、「人生の音楽」になるかもしれません。先生方の授業が「楽しい」「なるほど」であればあるほど、その児童生徒の宝物になる。そういった授業や表現を目指せるよう、教師も学んでいく必要があります。

第4回 研究部会活動報告

10月23日(木)

＜部会の報告＞

第4回は、「協働的な学びの実践報告」をテーマに実践紹介を行った。

○ 小学校5年生「日本の音楽」【実践①】【写真①】

複数の民謡の音源と、その民謡の「生まれた背景」「歌い方」「楽器」「旋律の音の高低」「情景」が書かれたカードを探究学習・協働学習システムに準備し、イヤホンジャック分配器を用いて仲間と一緒に民謡を聴きながら、どの民謡がどのカードと一致するのかをクイズ形式で考える活動に取り組んだ。

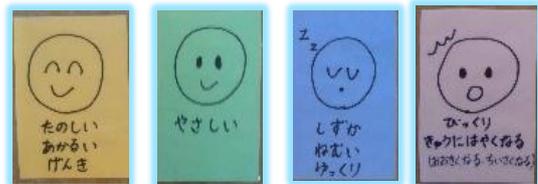


写真①

この実践では、グループで話し合うことで曲想について自分なりの考えをもつことができることや、他者の意見を知ることによって新たな音や表現に気付いたり感じ取ったりすることができることが報告された。

○ 特別支援学級「うたって うごいて みんなでおんがく」【実践②】

小学校1年生の教材「ゴーアンドストップ」の曲想に合わせて、体を動かす表現を考える活動に取り組んだ。まず、音楽から感じたイメージに合うカード【写真②】を子どもがそれぞれ選び、そのイメージに合わせてどのように体を動かすとよいのかについて考えた。次に、



写真②

それぞれが考えた動きを学級全体で一緒に行い、曲想の違いを感じ取る活動に取り組んだ。これらの活動により、「楽しい」のイメージカードを選んだ子どもの動きに合わせて、オリンピックの時のように堂々と行進する姿や、「静か」のイメージカードを選んだ子どもの動きに合わせて、忍者のようにゆっくり歩く姿が見られたという内容が報告された。

＜部会で紹介された実践やワークシートへのリンク＞

【実践①】

【実践②】

＜情報交換会の様子＞

【 小学校低学年 】

【 小学校高学年・中学校 】

小学校3年生のリコーダーの学習で自由進度学習を進めるときに、自由にグループやペアを組ませると、うまく演奏できない子ども同士で練習を進めようとする事が多く、なかなか上達しないことが話題になった。どんな相手と練習すると効果的かという観点を子ども自身がもてるようにする必要があるのであるということが話題に挙がった。

小学校6年生の教材「カノン」について、どのように授業を進めるとよいか、各自の経験を基に活発に議論が交わされた。子どもが自らゴールを設定して範奏動画や階名が記入された楽譜などを活用しながら活動に取り組む実践や、鑑賞を導入として、「カノンとはどのような音楽か」を大まかに捉えてから活動に入る方法など、参加された先生方それぞれの切り口があり、その違いや共通点を共有し合うことで、多くの気付きを得ることができた。

第5回 研究部会活動報告

11月13日(木)

＜部会の報告＞

第5回は「探究的な学びの実践報告」をテーマに、実践紹介を行った。

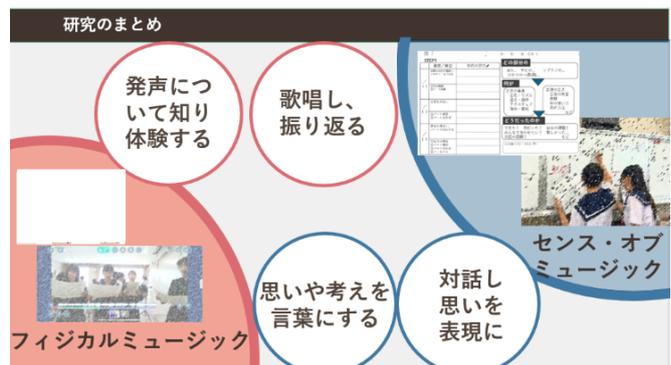
○ 小学校6年生「せん律のひびき合い」【実践①】

パッヘルベルの「カノン」の鑑賞を行う際、音楽の仕組みが分かりやすくなるような映像を用いてまず理解を深め、その後、リコーダーを用いて活動を行い、個別最適な学びと協働的な学びのどちらのよさも取り入れながら学習を進めるようにした。難易度を分かりやすく示したカードを探究学習・協働学習システムに準備し、個々に練習を進める。また、イヤホンジャック分配器を用いて、仲間とともに協働的な学びを進める活動が報告された。



○ 中学校3年生「日本の歌Ⅲ」「心通う合唱」【実践②】

「フィジカルミュージック」と名付け、響きのある歌声を身に付ける実践を行った。この活動では、正しい呼吸法を身に付けるために、体のどの部分を使って歌うと、歌声が響くかを実感しながら学び合うことができた。また、「センスオブミュージック」では、子ども自身が感じ取ったことを「こうやって歌いたい」と言葉にし、仲間と対話しながら思いや意図を表すために試行錯誤し、よりよい表現となるように、実際に体でリズムをとったり、表情豊かに歌ったりして学びを深める姿が見られたことが報告された。



＜部会で紹介された実践へのリンク＞

【実践①】

【実践②】

＜情報交換会の様子＞

【 小学校低学年 】

小学校2年生の教材「こぎつね」について、鍵盤ハーモニカの演奏が苦手な子どもへの指導法が話題となった。鍵盤に階名ごとに色違いのシールを貼ったり、動画を用いて繰り返し手の位置を確認できるようにしたりする等の実践紹介があったことで、鍵盤ハーモニカの指導法について理解を深めることができた。

【 小学校高学年・中学校 】

小学校6年生の教材「カノン」について、自由進度学習で子どもが自分でめあてを選ぶ際、「難易度の高い部分も全部演奏する」「簡単な部分を選んで繰り返して演奏する」など、それぞれの子どもが考えた方法で合奏が成立できる方法が紹介された。また、インターネット上で使うことのできる音楽作成ソフトを活用して、旋律づくりや楽譜づくり、創作活動に活用する方法などが話題となった。

2 研修

(1) 音楽教育講演会

ア 日時・場所 5月21日(水) 15:15～ イーブルなごや

イ 内容

○ 講演

- ・ 講師 前名古屋市音楽科指導員
野立小学校 主幹教諭 徳田 幸子 先生
- ・ 演題 「指導員訪問を通して」

(2) 夏季研修会

ア 日時・場所 8月8日(金) 13:30～ ほのか小学校

イ 内容

○ 研究発表

- ・ 発表者 桃山小学校 山口 泰幸 先生
「自己の思いを具体的に表現できる
児童の育成を目指した音楽科授業づくり」
- ・ 発表者 東丘小学校 吉田 悦子 先生
「音楽のよさを音楽づくりに生かす児童の育成」

○ 講演

- ・ 講師 筑波大学附属小学校教諭(音楽科)
筑波大学非常勤講師 平野 次郎 氏
- ・ 演題 「音楽づくり・創作につながる常時活動とワークショップ」

(3) 冬季研修会

ア 日時・場所 2月11日(水) 10:30～ ルブラ玉山

イ 内容

○ 研究発表

- ・ 研究部 「個別最適な学びや協働的な学び、
探究的な学びの実現に向けた実践報告」

○ 講演

- ・ 講師 令和7年度名古屋市音楽科指導員 丸の内小学校 石黒 一江 先生
- ・ 演題 「指導員訪問を通して」

○ 講評

名古屋市教育委員会義務教育課 指導主事 荒川 洋子 氏

(4) 生産・文化的部活動指導者研修会

○ 合奏

- ・ 日時・場所 8月25日(月) 13:30～ 扇台中学校
- ・ 講師 箏曲家・作曲家 野村 祐子 氏
- ・ 内容 「和楽器『箏』の指導方法」

(5) 学習会

「みんなで歌おう！楽しい合唱ワークショップ」

I ねらい

歌唱活動の基礎となる発声法や、合唱における指導法について学ぶ。

II 活動の方法と内容（講師：塩谷 幸大 氏）

1 楽しく身に付く発声トレーニング

(1) 声を出す前のウォーミングアップ

- ① 両手を上にあげるストレッチ（写真）
- ② 肋骨に指を入れて息を吐く
- ③ 足を交互に上げ、脱力しながら息を吐く
- ④ 手のひらを上にしたまま、手を八の字に回す肩のストレッチ
 - ・ ①②では、横隔膜を開くことを意識する。
 - ・ ③では息が頭の上から下半身まで上から下に流れるように脱力する。
 - ・ ④は肩の付け根をしっかりとストレッチできるように行う。



(2) ペットボトルを用いて、仮声帯を開くトレーニング

- ① 「アー」と歌いながら、水の入ったペットボトルにストローで息を入れる。次に、「ウー」で音程を変えながら息を入れる（写真）。
- ② 頬を膨らませてローソクの灯を消すように息を出しながら5度の音程を上下させて歌う。
 - ・ ①②は2～3分程度行う。これで一気に喉が開き声も変わる。
 - ・ 高い音は声が奥に入るイメージにし、声量も小さくする。



(3) 音階練習

- ① 「ドミソミド」の音に合わせ、gou（ゴウ）gei（ゲイ）で歌う。
 - ・ 声帯をそのままの位置でキープしながら、息は上から下に流すイメージで吐く。
 - ・ 頭のとっぺんから両足を結ぶ三角形のイメージで立つ。
 - ・ 目の奥裏からつむじの方まで開ける。とても高い声は赤ちゃんが「泣く」ように。

2 お悩み解決！合唱指導あれこれ

「旅立ちの日に」を教材に、合唱における指導法について学んだ。「ひかり」「そら」「きみ」などの名詞の頭で息のスピードを上げ、「～は」「～に」などの助詞では少し弱く歌うと、自然な抑揚がついて美しい合唱になることをご指導いただき、実際に歌う中で体験的に学ぶことができた（写真）。また、声量をアップさせたいときに口を手で塞いで歌う方法や、音程が下がってきてしまう時に両耳を塞いで自分の声を聴きながら歌う方法など、指導の場面で起こる問題に対する解決方法についてもご指導いただいた。医療器具を活用して行う呼吸の練習方法についても紹介があった。

